

極楽寺だより

長門市三隅下
野波瀬
0837(43)0625

秋の永代経法要のご案内

次のとおりおつとめいたしますので、お誘いあわせの上、お参り下さいますようお願いいたします。

日時 十一月七日(月)

昼一時半 夜七時半

十一月八日(火)

昼一時半

講師 福岡県 筑紫野市 願應寺住職

中川清昭師

- ◇ 昼間仕事の方は、ぜひ夜にお参り下さい。
- ◇ 昼、夜と続けて参って下さる方が多くなってきました。有り難うございます。

永代経法要とは

「いつまでも(永代)お念仏の

み教え(お経)が伝えられます

ように」と願い(仏徳讃嘆)、

またご門徒のご先祖が、志を納

めてお寺を護りお念仏を喜ば

れたことを感謝して(祖恩

報謝)お勤めする法要です。

ですから、「その心を大切に

受け継ぐ」ということは、「さ

そいあって法を聞き、如来さま

のご恩をよろこぶ」ということ

であります。



今後の行事予定

12月18日(日)14時

12月31日(土)11時45分

1月 1日(日)10時

1月14日~16日

仏婦報恩講

除夜の鐘撞き

元旦会

御正忌報恩講



お取越しの季節です



親鸞聖人の魅力とは

「お取越し」の季節です。「お取越し」とは、親鸞聖人のご法事「報恩講」をご命日よりも取越して（早めて）、各家々で勤めるという真宗門徒にとつて大切な伝統行事です。ところが最近、都会の方では自分の親の法事も一周忌か三回忌までしか勤めないという人が増えているようですから、「どうして親戚でもない人の法事を、勤めなくてはならないのか」と思われるのかもありません。しかし、親鸞聖人が亡くなられてから七百五十年の歴史を通して、伝えなくてはならない大切なことがあるのです。その重みを深く受け止めることは、こんな時代だからこそ本当に大切なことだと思います。

では、親鸞聖人という方は、一体どんな方だったのでしょうか。多くの人々の心をつかむ親鸞聖人の魅力とは、一体何なのでしょう。それを私のような者が語るなどというのは、大変おこがましいことだとは思いますが、あえて一言で言うとするならば、「人間というものを、深く

見つめるまなざし」と、「そのまなざしの温かさ」にあるのではないかと思うのです。

聖人ご在世の当時、人々は奪い合い、傷つけ合い、時には殺しながらしか生きていけないような時代でした。しかし、親鸞聖人はそんな人々を「なんと愚かで、なんと残酷な奴らなのか」などと見下すようなことは、決してされませんでした。「人間とは、なんと愚かな、なんと残酷な生き物なのか。そして、私自身もその人間なのだ。」と、自分の姿をそこに見出し、共に救われていく道を求めていかれたのです。

私の尊敬する映画監督今村昌平さんは、若かりし頃小津安二郎監督の『東京物語』に助監督として携わりました。しかし、小津監督の演出に疑問をいだき、当時エリート街道であった小津組から外れ、日活に移籍して監督デビュー。社会の片隅や、底辺に生きる人々の姿を描く作品を作り続けます。その今村監督が、基地の町・横須賀に生きる人々を描く監督第五作『豚と軍

艦』(主演・長門裕之)の脚本を書いていた時のエピソードにこのようなものがあります。

当時まだお元気だった小津安二郎師と(脚本家の)

野田高梧師とぞって

「汝等何を好んでウジ虫ばかり画く?」
といわれた。

その時決定。

「俺は死ぬまでウジ虫ばかり描く」

社会の底辺に生きる人々をウジ虫として見下すのではなく、共に生きる者として向き合う今村監督の姿勢は、親鸞聖人の生き方に通じるものを感じます。

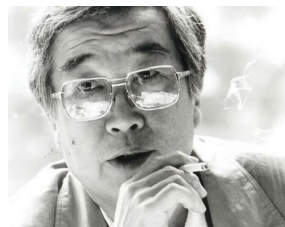
また今村監督は、自ら設立した日本映画学校で、こんなことを言われています。

「私の作りました日本映画学校の理念りねんというものがあります、『人間はかくも汚濁おだくにまみれているものか。人間はかくもピュアなるものか。なんとなくさんくさいものか。なんとすげえなものか。』ということを提示しているわけですね。これは、裏

の裏まで人間というものをよく見つけてもらいたいという私の意見なんです。皆さんは、これを拳拳服膺けんけんふくようして、なるべく人間を見つめるという動作を怠おこたっては困る。」

人間という存在を興味深く見つめ、汚濁にまみれた部分からも決して目を逸らさない。それは本当の人間好きにしかできない行為そであり、温かな優しさを感じます。だからこそ、今村監督の作品は重厚でありながらエネルギーだと評価じゅうこうされるのでしよう。

人間が取り換え可能な道具のように、単なる数字のようにしか扱とわれかないような、薄っぺらなものかろうの見方がどんどん広がっている現代社会において、このような「人間というものを、深く見つめるまなざし」と「そのまなざしの温かさ」こそが、本当に求められているのではないでしょうか。私たちの先輩方は、そんな深さと温かさを親鸞聖人の生き方に感じ、その大切さを伝えようとされているように思うのです。 **秀**



今村昌平監督

会にご協力を

大地震と大津波によって、大災害におそわれた東日本。山口に住む私たちには想像もできないほどの苦難くなんの生活は、今なお続いています。



綿野節男さん

野波瀬在住の綿野節男わたのせつおさん（極楽寺世話人）は、災害後約2ヶ月間けせんぬま いしのまき気仙沼と石巻でボランティア活動に従事されました。テレビ等で報道される様子と現地の状態は大きな差があり、筆舌ひつぜつに尽くしがたい見聞けんぶんと体験たいけんをされました。

綿野さんは、こう語られます。

「おぼ溺れた人がいると話を聞くだけでは、誰も何にも思わないでしょう。でも、目の前に溺れた人がいたら、誰もが助けようとするはずです。私は溺れている人を、見てしまったのです。」

綿野きょうかん氏の現地への強く熱い思いゆうしに共感した有志によって『東日本被災地支援の会』が、設立もとされました。元気仙沼市長鈴木昇氏を通して被災地のニーズを聞き、義援金や物資を送っています。極楽寺住職も、お手伝いをさせていただいています。

被災地のニーズは、日々変わっていきます。生活に必要なものから、心を慰めるものまで。昨日まで必要だと言っていたものが、次の日にはたくさん送られてきて余ってしまったということもあるようです。被災地の細かな状況を聞きながら、小さな団体だからこそできる「小まわりの効く対応き たいおう」をしています。



東日本支援の会の活動が、毎日新聞、長門時事、萩時事に紹介されました。

(5)

東日本支援の

使い捨てカイロを集めています。

目標一万個!



極楽寺本堂に 収集箱を用意 しています。

これから被災地は冬に向かいます。現在、『支援の会』では使い捨てカイロを一万個を送る運動をしています。極楽寺本堂内に箱を用意しておきますので、よろしければご協力下さい。※ 貼るタイプのものが、喜ばれるようです。

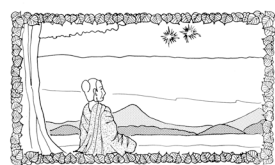
義援金もお願いしています。よろしくお願ひします。

◆ 送金方法

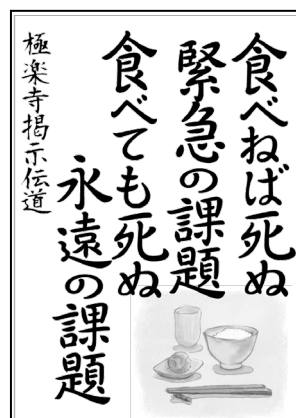
【銀行振込】

萩山口信用金庫 松本支店 普通預金 0127037

口座名義・・・東日本被災地支援の会 代表 上田俊成



極楽寺揭示伝道
けいじてんどう



10月の言葉

「食べねば死ぬ」これは、私たちにとって本当に重要な、緊急の課題です。ところが私たちは、同時に「食べても死ぬ」という永遠の課題が突きつけられていることを忘れがちに生きているのではないのでしょうか。

親鸞聖人という方は、永遠の課題を大切にされた方ですが、緊急の課題をおろそかにされた方ではありません。緊急の課題に振り回されながら生きていかざるをえない人々の中に自分の姿を見出し、共に救われていく世界を教えて下さった方なのです。

近頃は、永遠の課題にまともに向き合おうともせず、「どうせ人間死ぬんだから、好きなことをする。」「自分のやりたいことをする。」という考えの方が多くのではないのでしょうか。しかし、この「死んだら終わり」という死後観しごかんが、自分勝手に、目の前のことしか見えない生き方を生み出しているのかもしれない。

お念仏をいただくものは、往生浄土おんじゆじゆとうへの人生をいただくのだと教

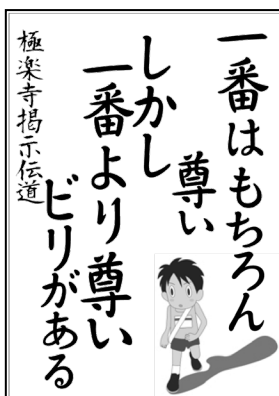
えられます。往生とは、ただ死んでいくことではありません。『往生じゆきて生まれる』という意味です。つまり、死の向こうに、阿弥陀如来のお浄土に『往生じゆ生まれる』人生が開かれるのだということです。こんなことを言うと、「科学的ではない」とか「子どもでも信じない」とバカにされるような時代になりましたが、私たちの先輩方は、その信じがたいような話なんしん（難信の法ほう）にうなづくことで、

「また、お浄土で会える。だから、お浄土の母ちゃんが泣くような生き方はできない」、

「アイツは大嫌いだけど、お浄土で仏様として出遇であい直なおさせてもらうんだから、そんなにヒドイことはできない」、

「またお浄土で会う子や孫に、おかしな社会は残せない」といった、時間的にも空間的にも広がりのある生き方をいただくためのです。

あなたは、永遠の課題にどう向き合いますか？「どうせ死ぬんだから、好きなことを」と安易あんいに考えるのか、「死の先には、阿弥陀如来のお浄土に『往生じゆ生まれる』人生が開かれる」と向き合うのか。そこから見える世界は、大きく違ってくるはずですよ。 ■



9月の言葉

運動会のシーズンです。スポーツの得意な子には楽しみな季節でしょうが、反対に苦手な子にとっては嫌な季節なのかもしれません。何事においても一番をとるには、恵まれた資質ししつだけではなく本人の努力が必要です。ですから、一番をとることは本当に尊いことですし、そこを目指すことが成長を促すつなぐことにもつながります。

しかし、どんなに頑張っても、誰もが一番になれるわけではありません。なぜなら、一番というのは競争の結果だからです。それは誰かと比べることで成り立つものですから、一番がいれば、二番もある。当然ビリもいます。誰もが望んでも、一番になれるのはたった一人。どんなに頑張っても、無理なことだつてあります。体力や学力に恵まれた人もあれば、そうでない人もあるでしょう。だからといって、「どうしてあんなふうに生んでくれなかったのか」と叫んでも、自分の人生は誰かに代わってもらってもどうすることもできません。厳しいことですが、それが人生です。

私たちが生きていく限り、競争は必ずついてまわります。しかし、勝つことで見えなくなることとあれば、負けることで気づくこととあります。逆に、勝つことで気づくこととあれば、負けることで見えなくなることとあるのです。ならば、競争を通して何を学ぶのか、

何に気づくのか。そのことの方が自分の人生を生きる上で、もっともっと大切なことなのではないでしょうか。

筋ジストロフィーという病気によって、二十七歳で亡くなられた河端洋安かわはたひろやすさんは、

僕にできることは あまりに少ないけれど

たった一つだけ 僕にしかできないことがある

それは「自分」を生きること (『君への贈りもの』海鳥社)

という詩を遺のこされています。

誰にも代わることができない「自分」の人生を、精一杯生きる。河端さんの生き方を前にすると、誰かと比べて劣等感れつとうかんを持ったり、人を見下して安心したりという生き方が、いかに目先の結果に振り回されただけの薄っぺらなものなのかを教えられます。

阿弥陀如来という仏さまは、足の遅い子を速くさせて下さる仏さまではありません。「たとえ結果がビリであっても、あなたの人生はかけがえないもの。だから、精一杯自分の人生を生きて下さい。」と呼びかけて下さる仏さまです。自分を誰かと比べて劣等感を持ったり、安心したりという世界から、解放かいはつして下さる仏さまなのです。「一番より尊いビリがある」そのことに気づく心が育てられることが、自分の人生を、そして周りの人々の人生を尊び、豊かに受け止めていく道なのだを教えて下さる仏さまなのです。■



極楽寺ホームページ

<http://極楽寺.com/>

山口新聞に、『東流西流』という一般の人たちが順番に書いているコラムがあります。縁あって七月、八月の木曜日、計八回を住職が担当したのですが、いろんな方面のたくさんの方々から声をかけていただき、思わぬ反響に驚いています。内容は、極楽寺だよりの使いまわしがほとんどなのですが。その『東流西流』の文章も、ホームページに掲載しています。

極楽寺だよりを送りませんか



極楽寺では、都会に出られているご門徒の方や家族の方々、有縁の方々に、極楽寺だよりをお送りしています。都会の子どもさんやお孫さんに、送られてはどうでしょう。連絡先を教えていただければ、お寺から直接、お送りいたします。

宮崎の野菜を、東北へ

野菜サポーター義援金 ご報告

宮崎新燃岳噴火による被災地の野菜を、東北の被災地に送る「野菜サポーター」へのご協力、ありがとうございました。

10月12日に、募金12,000円を送金しました。

